

作新学院大学

作新学院大学女子短期大学部 図書館

令和5年 10月号

文学に触れる

人間文化学部 准教授 安齊 薫

私のお墓の前で泣かないでください
そこに私はいません
眠ってなんかいません

みなさん、どこかでこのフレーズを聞いたことありませんか。そうですね。声楽家（テノール歌手）の秋川雅史さんによって歌われている「千の風になって」の最初の歌詞です。「千の風に 千の風になって あの大きな空を吹きわたっています」と続きます。

大学院生の時、私は父を亡くしました。交通事故でした。急な別れの悲しみに「もう立ち直れない」と落ち込んでいました。そんな日々の中、テレビから朗々した歌声が流れてきました。慣れない書類と色々な電話対応で常にピーンと張りつめていた心が一瞬にしてほどけたのでしょうか。自然と涙がこぼれてきました。この歌詞は、亡くなった人から、いま生きている家族や友人、恋人に向けてのメッセージなのです。

実は、この詩には原詩（英詩）が存在します。“a thousand winds”というタイトルの短い英詩です。この詩はアメリカやイギリスで昔からお別れや故人を偲ぶ会で脈々と朗読されてきました。不思議なことに、Author Unknown（作者不明）、誰が作ったか分からないのですが、多くの人がこの詩に癒され、新たな視点を得るきっかけとなっています。つまり、この詩は生きているのです。

「風や小鳥に姿を変えてあなたのそばにいます」という輪廻転生（または靈魂不滅）のこの「死生観」は、時空を越えて現代に生きる私たちの心にもフッとあたたかな何かを生み出します。たまに文学に触れてみませんか。

参考・引用文献：原詩/作者不明、日本語訳/新井満『千の風になって』講談社

★あわせて読もう★

本学図書館には『絵本 千の風になって』があります。

こちらを読んでいただくことで、安齊先生の文章をより深く理解していただけたと思います。

どうぞご覧ください。

新井満『絵本 千の風になって』請求記号 E/Ar

大学４年間で身に付けたもの

人間文化学部 心理コミュニケーション学科 ４年 佐藤 美砂

私は、大学４年間で、視野を広げ、多角的に物事を見ることを身に付けました。

大学の講義では１つの見方に捕らわれない、多様な意見が尊重されます。

私は１年生の頃は、１つの視点に捕らわれてしまうことがありました。しかし、様々な講義やディスカッションを通じて、同じ物事でも見る人の立場によって見えている面が異なるということに気づきました。それからは、１つの物事を多角的に見る習慣がつき、知識をより深めることができました。

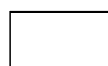
また、心理実習という講義の中で、小学校の別室登校支援ボランティアに参加する機会がありました。自分が小学校に通っていたときとは異なり、ボランティアでは教員の側から小学校を見ることができました。この経験は小学生から見た学校と教員から見た学校、２つの視点を得ることにつながり、学校での問題に対して広く考えることができるようになりました。

このように私は、大学４年間を通し、視野を広げ、多角的に物事を見ることを身に付けることができました。

大学で身に付けたものは、今後も活かせる場面が多いと思います。みなさんもぜひ、大学での学びを大切にしてください。

図書館開館カレンダー１０月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



午前 9 : 00～午後 6:00



午前 9 : 00～午後 1:30



休館日